

第三問

次の文章を読んで、後の設問に答えよ。ただし、設問の都合で送り仮名を省いたところがある。

学校所以養士也。然古之聖王、其意不僅此也。必使天下治。之具皆出於学校而後設。学校之意始備。天子之所是未必是。天子之所非未必非。天子亦遂不敢自為非是。而公其非是於學校。是故養士為學校之一事、而學校不僅為養士而設也。

三代以下、天下之是非一出於朝廷。天子榮之則群趨以為是、天子辱之則群擿以為非。而其所謂學校者、科舉囂争、富貴熏心。亦遂以朝廷之勢利一變其本領。而士之有才能學術者、且往往自拔於草野之間、於學校之初無与也。究竟養士一

事亦失レ之矣。

(黄宗羲『明夷待訪錄』による)

〔注〕 ○三代以下——夏・殷・周という理想の治世が終わつた後の時代。

○囂争——騒ぎ争う。

○熏心——心をこがす。

設問

- (一) 傍線部 a・d・e の意味を現代語で記せ。
- (二) 「不敢自為非是」(傍線部 b) を平易な現代語に訳せ。
- (三) 「以朝廷之勢利一變其本領」(傍線部 c) とはどういうことか、わかりやすく説明せよ。
- (四) 「亦失レ之矣」(傍線部 f) とあるが、なぜ「亦」と言つてゐるのか、本文の趣旨を踏まえて説明せよ。